

第1学年 生活科の実践

1. 単元名 「あきのあそび かぜで あそぼう」(全5時間 本時3時)

2. 単元目標

単元
目標

身近にあるものを使って友達と遊んだり、風を利用して工夫して遊んだりして、遊びのおもしろさや自然のふしぎさ、季節の変化に気付き、みんなで遊びを楽しんだり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができる。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり

低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」

・人の言動に何かを感じる姿 ・自分の思いや、他者からの刺激に対し、素直に表現する姿

<聞く・話すの指導について>

考えを交流する場面の「話す・聞く」については、まず、「聞く」ことを大切に指導している。「聞く」ということは、考えながら聞くということ、想像しながら聞くということ、日常生活の中でも常に大事なことだと声かけをしている。そして、教師や友達の考えを聞いた後、思いや考えを持たせ、考えをまとめさせるための工夫をしていきたいと考えている。思いや考えを引き出し、関わらせるための工夫をすることによって、お互いの考えを聞きながら自分の考えを広めたり深めたりすることで、ひびきあう学びにつながっていくと考えている。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

学校生活での児童の様子については、全体的に落ち着いた生活を送ることができている。生活科では、校内を探検し、学校にある物やある部屋という物探しにとどまらず、「何のために?」「誰がどのように使うの?」と施設を詳しく調べたり、小学校にいる人にインタビューしたりして、意欲的に活動することができている。朝の会のスピーチタイムでは、「私の好きなものは、〇〇です。わけは、□□です。」「私も好き(私は苦手)です。わけは、□□です。」というように、席の隣の子と話し、まず、話形を定着できるようになった。次に一対全体、一人が話すことを聞いて、2、3人が感想を話すという形に変えていった。感想をいう子は、くじで当たるので、緊張して人の話を聞くようになってきた。簡単な話形で話されたことに対しては、反応できている。しかし、自分の考えを伝えることでは、「思っていることはあるけど、なんて言ったらいいのか分からない。分かってくれるかな。」と思っている子や友達の話を聞いても「なにをいっているのだろう。」と思う子もいる。そのため、動作化や絵や具体物を使ったり、説明するための言葉を増やすために言葉集めあそびをしたりして、言葉を理解できるような活動をしながら、「言葉」・「活動」・「思い」を繋げていきたいと思っている。そして、ひびき合う姿に近づけるよう関わらせていきたいと考えている。

4. 単元と指導について

<単元について>

本単元は、学習指導要領の内容(5)「季節の変化と生活」と(6)「自然や物を使った遊び」をもとに構成し、内容構成の具体的な視点として、「キ 身近な自然とのふれあい」「ク 時間と季節」「ケ 遊びの工夫」を位置づけている。

風は、子どもの身近な存在である。春のそよ風やサクラが舞う様子や、夏の台風の近い日には風が強くなることや、扇風機を使って涼むと気持ちよいことなど、子どもたちは生活の中で風を体験して

いる。秋には、木の葉などが揺れる様子を見たり、枯れ葉のカサカサという音を聞いたりすることで風を感じ、五感を使って考える子どもたちの適した教材である。また、風と遊ぶ活動を通して、試行錯誤しながら風の面白さや遊びを工夫する楽しさを実感し、共に学ぶ仲間の良さにも、子どもたち自ら気付くと考える、

<指導について>

五感で感じてきた風を利用して遊びを考え、友だちと見せ合ったり教え合ったりして工夫していく中で、季節や時間による風の違いや、風を生かしたり、風に合わせたりしながら生活していることを1年生なりにとらえるようにしていく。そして、工夫したことや楽しかったこと、気づいたことなどを絵や文で表現したり、自分が作ったものを友達に伝えたりして交流を深める中で、自分の成長やがんばっていることに気づかせていきたい。また、遊ぶ中で、友達と交流する場を設けて、話し合ったり、見合ったりして友達の良さに触れ、「ワクワクした気持ち」を大切にして活動を進めていきたい。

子どもたちは風車に出会うと、そのくるくる回る様子を喜び、回してみたい、作ってみたいと興味を示し、自然に**切実な問題**「くるくる回る風車を作りたい」「きれいな風車を作りたい」「もっと風であそびたい」と願いを持つであろう。そして、自分の願いが実現した風車を作り遊んだ後、自分たちで、風で動くおもちゃを調べて作る。このような遊ぶ活動を通して、自然と遊ぶ楽しさをみんなで共有し、遊び方を工夫したり友だちや自分のよさに気づいたりできるという**ひびき合いの姿**が、多く見られるよう教具や場の工夫をしていきたいと考えている。

5. 単元構想 次頁参照

6. 本時について

- (1) 本時の目標 風車を作る活動を通して、風への関心を高め、自分や他者の良さに気づくことができる。
- (2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
<p>くるくるまわる <u>かざぐるまをつくらう</u></p> <p><アドバイス></p> <p>○○○ 羽をおるところを 気をつける</p> <p>○○○ 手で回す</p> <p>○○○ 羽と画紙、 羽の向き</p>  <p>・羽の数が多いい方が、くるくる回る。</p> <p>・羽の向きが同じだとくるくる回る。</p> <p>・色を塗ってみると塗った色と回ったときの色が違った。</p> <p>＜羽の向き＞ ・同じ方向 ・同じように</p> <p>＜羽の数＞ ・多い方がいい ・少ない方がいい</p> <p>＜羽の大きさ＞ ・大きい方がいい ・小さい方がいい</p> <p>＜羽の形＞ ・四角 ・丸く</p> <p>＜色＞ ・関係ない</p> 	<p>○前時の様子を、写真で見ながら振り返らせる。風車を見せ、送風機で回る様子を提示する。</p> <p>○前時のアドバイスを思い出す。</p> <p>○児童の視点がおもちゃづくりの工夫に向くように、おもちゃづくりで「うまくいかなかったこと」への気付きを取り上げる。</p> <p>○具体物を見せながら、説明する。</p> <p>○個人作業であるが、相談しやすいように、グループで作業を行う。</p> <p>○送風機の約束を伝える。</p> <p>①手を近づけない。</p> <p>②電源の入れ方。</p> <p>○「つくる」「試す」「比べる」を繰り返しながら、活動に浸れるように支援する。</p> <p>○活動が滞っている児童には、個に応じた言葉かけを行う。</p> <p>◇風車作りを通して、楽しかったことや気づいたことなどを表現することができる。(思・表)</p> <p>◇話し合いを生かして、風車を改良しながら楽しく遊んでいる。(思・表)</p> <p>◇自分たちなりの回る風車を作るコツを見つけ、遊びを工夫する面白さ、風の不思議さに気付いている。(気)</p> <p>○風と遊んで楽しかったことや頑張ったことを交流する。</p>

身近にあるものを使って友達と遊んだり、風を利用して工夫して遊んだりして、遊びのおもしろさや自然のふしぎさ、季節の変化に気付き、みんなで遊びを楽しんだり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができる。

①かぜって、なんだろう？

風を感じてみよう。

- ・木がゆれてたよ。
- ・はっぱがおちてたよ。
- ・運動場の土がすごい勢いで舞ってるよ。
- ・かさがおれたよ。

風は、目に見えないけれど、何かの様子で、わかるんだね。

風を見つけないこう

- ・スズランテープが揺れている。
- ・おりがみが、ひらひらしてた。
- ・ビニル袋が大きく膨らんだ。
- ・葉っぱが、舞っていた。

*風で動いている物がたくさんあったね。

風で何かを動かしてみよう！（教室で）

＜まず、下敷きやうちわで、風をおこしてみよう＞

- ・物が転がる。 ・物が飛ぶ。
- ＜風車をつくって回してみよう＞
- ・おりがみ、つまようじ、曲がるストローでつくる。
- ・送風機で回してみたい。
- ・よく回る。
- ・幼稚園の時、違う物も作ったよ。
- ・違う風車も作ってみたいな。

*風と仲良くなりたいな

*風車の作り方を家で調べよう



・風に関心をもち、五感を働かせて風を見つけようとしている。(関・意・態)

風で遊べるような材料を用意しておく。

- ・スズランテープ ・おりがみ ・ビニル袋 ・紙コップ
- ・送風機

風ので転がったり揺れたりする経験をさせる。

そして、「速い、遠い、高い、回転する」ということ、結びつけさ

・身近にあるものを使ってあそび方や風を受けるものを工夫しようとしている。(思・表)

・風のさまざまな働きに気づくよう場の設定を工夫する。

②かぜとあそぼう

調べてきた風車を作ってみよう！

＜まず、調べてきた風車を紹介しよう＞

- ・改良したよ(枚数) 改良したよ(形) ・他の材質 紙コップ・紙皿・ペットボトル・発泡トレイなど



＜風車をつくって回してみよう＞

- ・よく回る。 ・きれい。

③もっと、かぜとあそぼう 本時

*もっと、すてきな風車をつくりたい！

もっとすてきな風車を作ろう！

＜どうすれば良いかを考え、話し合おう＞

- ・羽の数 ・羽の形 ・大きさ ・かざり ・色

＜風車をつくって回してみよう＞

- ・羽の数が多いう方が、ぐるぐる回るね。
- ・羽の向きが同じ方がいいね。
- ・羽に塗った色と回ったときの色が変わったよ。

*もっと風で遊びたい！

*他にも、風ので遊ぶことができるか家で調べてみよう！

・風を利用する方法を考えて、おもちゃの作り方や遊び方を工夫している。(思・表)

・遊びの楽しさや遊びを工夫したりする面白さに気付いている。(気)

・工夫したことを教えあうことができるように、声かけをしたり、問いかけたりする。

・風に関心をもち、体全体で感じながら、友達と一緒に楽しく遊ぼうとしている。(関・意・態)

・自分たちで遊びを作り出す面白さに気付いている。(気)

④かぜをたのしもう

*風の力と友達になってあそびたい！

風をたのしもう！

＜調べてきた物を紹介する＞

- ・パラシュート ・たこ ・ほかけぶね ・風輪

＜作ってみよう＞

- ・友達に教えてもらいながら作るとおもしろいね。
- ・パラシュートは、風に乗って遠くまで行ったよ。
- ・たこも高く上がったよ。

*かぜっておもしろいね。

・自然の風をつかって友達と楽しく遊べるように、場の設定を工夫する。

・風の面白さ、友達や自分のよさ、成長などに気付いている。(気)

⑤かぜってふしぎだな。おもしろいな。

風っておもしろい！

＜気づいたことを話し合おう＞

- ・強弱 ・自然の風の良さ ・風の不思議
- ・友達の良さ 自分でもがんばったこと

＜作ってみよう＞

- ・友達に教えてもらいながら作るとおもしろいね。

- ・パラシュートは、風に乗って遠くまで行った

・単元全体を振り返り、風のおもしろさ・不思議さや自他のよさに気づかせるために、写真などを用いて活動を思い起こさせる。

7. 実践をおえて

(1) 本時に至るまでの経過

二の丸広場に行って、秋探しをしてきた。木の実をたくさん見つけたり、アキアカネやおんぶバッタの虫を見つけていたりして、秋を味わった。子どもたちは、「枯れ葉で遊びたい」「木の実で何か作りたい」「虫は、どこへ行ったか探したい」と話した。そこで、まず、「枯れ葉で遊びたい」から学習を始めた。枯れ葉で、お面や動物を作った。そして、枯れ葉のシャワーといいながら、枯れ葉で遊ぶ姿があった。遊ぶ中で、「風があるとサラサラ落ちるよ。」とか「寒い日には、ビュークルクルと動くこともあるよ。」「クルクル舞うこともあるよ。」「風っておもしろい。」という感想を話し合った。その後、「風ってなに？あそんでみたい。」と子どもたちの願いがあり、「かぜとあそぼう」の学習を始めた。

「かぜとあそぼう」では、「おいかけっこ、かぜをあつめる、かぜにのる、かぜをいっぱいすう、はっぱをとばす。」という活動をした。子どもたちは、「風には、力がある。強かったり弱かったりする。物を動かす力がある。物を回す力もある。風の強さ弱さで、風車が回ったり回らなかったりする。」という考えを共有した。そして、「風車をつくって強い弱いを実験してみよう！」と風車作りを始めた。風車作りを始めると、思うように回らなかったり、すぐに壊れてしまったりした。そのため、子どもたちは、「こわれない、じょうぶで、よくまわるかざぐるまをつくりたい」と切実な問題をもった。

(2) 本時での様子

切実な問題 くるくるまわる かざぐるまをつくろう と、良く回る子のアドバイスを聞いて活動し始めた。アドバイスの視点が<羽の向き><羽の数><羽の大きさ><羽の形>であったので、どれに注目して活動するかを自分で決め、風車を作った。

(3) 単元を通しての成果と課題

<成果>

友達のアドバイスを、自分の風車との違いを見つけながら聞くことができたためか、「自分がどうすれば良い」か、「どうしたい」かを決めて活動することができた。作る素材や風の強さや向きを考えて、回る風車を作ろうと取り組むことができた。また、良く回る子は、近くの子に教えたり、手伝ったりする姿や、良く回らない子は、「どこが、ちがうの？」と訪ねる姿。そして、回ったときには、一緒に喜ぶ姿も見られた。

<課題>

1時間の授業の中で、時間配分、共通理解するための手立てについて、課題が残る。

1時間で、友達の考えを共有し、作る活動をするときは、時間配分を十分に配慮する必要がある。1時間の自分の目当てを一人ひとり、しっかり持ってほしいという願いから、説明の時間や自分の意思表示の時間を多くとったが、説明の時間が多過ぎると活動の時間が少なくなってしまう。子どもたちは、「もっと作っていたい」「なんで、自分のはうまくいかないんだろう。」と試行錯誤しながら作っていたので、もっと活動する時間を多くとるべきだと思った。

次に、共通理解するための手立てとして、二つある。一つ目は、掲示物の工夫である。実際に回っているところを動画で見せたが、忘れてしまうので、動画+写真にし、何についての説明だったかを思い出させる掲示が必要であった。また、説明の仕方については、良く回っても、説明がうまくできなかった子に対して、絵や具体物を使用するなどの掲示物があれば良かった。二つ目は、活動の場の工夫である。活動のグループを生活グループで行わせたが、目的別グループで活動させたほうがよかった。羽の数に着目した子たちは、羽の数で話し合うことができ、具体的に「何枚が良い」というように焦点化しながら、風車作りをすることができたからである。また、近くで友達の良いところを見たり聞いたりして、もっと関わり合いながら風車作りができたと思った。